

シリーズ 58

我が家の家庭教育

宝米 小川 総子

思いやる心を 忘れずに
歩んでほしい

「時間よー」朝一番に子供達に掛ける言葉です。一テンポ遅れて返事があります。改めてこれといった家庭教育などしていいない、わが家、いえ私です。子供達には、こうしてもらいたい、こうなって欲しいと

いう希望はあるのですが、行き当たりばつたりの毎日です。子供の教育や躾等の講演などを、聞いたり見たりしては、なる程私も、わが家でもとその都度思うのですが、現実はいかなかなかうまくいかず、反省の繰り返しです。

高二と中一の女の子二人。姉妹でも性格の相違があるので、接し方や反応で戸惑う時もあります。自分がその時代に戻り、あの時、自分はどんな考え、気持ちだったんだろうと、思い浮かべては模索したり……。農家であった私の両親は、

朝から晩まで働いていました。とにかく母親の思い出は、緋のものんべをはいて働いているか、座敷で縫い物をしている



姿が、まず浮かんでくるのです。お互い話を交す暇も無いといったところでした。今思うと悔やまれてなりません。ですから自分は、一言でも二

言でも子供達と会話をと、思っています。私達も共働きの身で、それがままたらないのですが。子供達の方から話し掛けてきた時は、良く聞く様にし、こちらから話し掛けて鈍い返事だったら、無理に聞き出さない様に。注意や忠告はしても、余り干渉しない様にしています。「どうしよう」「どうしようか」と、思っている時は、「頑張りなさい」と、励ましています。

す。ちょっとしたおやつなど器用に作ってくれるのです。「おじいさんがいるから、あなた達はこれまでに大きくなつたのよ」と、機会ある事に言います。

女の子同士、和気あいあいとしています。たわいのないことで、ケンカもします。そんな時「どちらが悪いでもない、お互い様でしょう」と、仲に入ります。

これからの長い人生、相手の立場になって考え、思いやりの気持を常にもちながら、歩んで欲しいと思っています。女らしさも失わず……。

ひかりまちの
風土記 ⑬



▲銅造阿弥陀如来及び
両脇侍立像(篠本二
区)



阿弥陀如来坐像(辻)



銅造阿弥陀如来及び
両脇侍立像(小川台)

県指定文化財

光町には、昨年九月号で紹介した古屋福秀寺木造薬

師如来立像のほか、小川台隆台寺銅造阿弥陀如来立像、辻観音院木造阿弥陀如来坐像、篠本新善光寺銅造阿弥陀如来立像が県から文化財の指定をうけています。

隆台寺、新善光寺の如来像には両脇侍立像があり、その形態から善光寺式三尊といわれています。これらの仏像の制作時期は、鎌倉時代から室町時代と推定されます。